

令和5年4月21日  
利根川水系渇水対策連絡協議会  
(事務局:関東地方整備局)

## 令和5年度第1回利根川水系渇水対策連絡協議会幹事会 (春季定例会)の開催結果について

令和5年4月20日に開催した令和5年度第1回利根川水系渇水対策協議会幹事会(春季定例会)の開催結果をお知らせいたします。

### 1. 開催状況

日 時：令和5年4月20日(木) 13:30～

場 所 等：Web会議

協議会構成：国土交通省関東地方整備局、経済産業省関東経済産業局、

農林水産省関東農政局、東京都、千葉県、埼玉県、茨城県

群馬県、栃木県、独立行政法人水資源機構

協議会の目的：利根川水系の渇水時における円滑な水需給の調整を図る。

### 2. 開催結果

別紙のとおり

<発表記者クラブ> 埼玉県政記者クラブ 竹芝記者クラブ 神奈川建設記者会  
東京都庁記者クラブ 千葉県政記者会 茨城県政記者クラブ 栃木県政記者クラブ  
刀水クラブ・テレビ記者会 水資源記者クラブ

<問い合わせ先>

関東地方整備局 河川部

電話：048-601-3151(代表) FAX：048-600-1380

河川環境課

課長 齋藤 充則(内線：3651)

建設専門官 高橋 臣夫(内線：3652)

## 現状と今後の対応

### (1) 現状

- 降水量（栗橋地点上流域平均）の状況
  - 1月の降水量は22mm（平均値に対する割合50%）
  - 2月の降水量は26mm（平均値に対する割合57%）
  - 3月の降水量は86mm（平均値に対する割合126%）
  - 4月17日0時までの累加降水量は28mm（4月の月間降水量の平均値は91mm）
- 積雪の状況（4月17日9時現在）
  - 藤原ダム地点 積雪深0cm（3月20日頃に消雪）
  - 尾瀬沼地点 積雪深93cm（平均値198cmの5割程度）
- 利根川上流9ダムの貯水状況（4月17日0時現在）
  - 貯水量は同時期の平均値を上回っています。
  - 貯水量3億9,008万m<sup>3</sup>、貯水率71%、平均値に対する割合114%

### (2) 今後の見通し

- 気象庁発表の1ヶ月予報（令和5年4月15日から令和5年5月14日までの天候見通し）によると、降水量は「多い」と「平年並」の確率が40%となっています。
- 利根川上流域に積雪が残っている6ダム（矢木沢、奈良俣、藤原、相俣、菌原、ハッ場）では、ダム下流に必要な流量を放流しながら雪解け水を貯留しているところであり、貯水量の回復が見込まれます。
- 一方、今後は、農業用水の利用が徐々に増加し、ダムからの放流量が増え貯水量が減少する時期になります。特に、本年は降雪量が少なかったことと、春先の高温により雪解けが早まっているため、例年より早くダムの貯水量が減少していくことも考えられます。更に、降雨状況によっては、ダムの貯水量が急激に減少することも考えられます。
- 鬼怒川上流4ダムの貯水量は、現在、同時期の平均値を上回っていますが、鬼怒川では、4月中旬から農業用水の利用が急増するため、ダムの貯水量が減少に転じることが見込まれます。更に、降雨状況によっては、ダムの貯水量が急激に減少することも考えられます。

### (3) 今後の対応

- 利根川上流9ダム、鬼怒川上流4ダム等は、上流域の融雪状況や降雨、農業用水や都市用水の水利用を十分考慮するとともに、既存施設を広域的かつ効果的に活用し、きめ細かい運用を行っていきます。
- ダム群の貯水量の状況や積雪及び降水量の状況等の情報提供を引き続き、積極的に行っていきます。
- 利根川水系渇水対策連絡協議会としては、必要に応じ幅広い広報活動を通じて節水の協力を要請していくとともに、取水制限等の調整が必要になった場合には、令和3年12月16日に策定した利根川水系渇水対応タイムラインに基づき関係機関による協議の下、機動的に行っていきます。

## 利根川上流ダム群等の現状と今後の見通しについて



奥利根湖と利根川源流の山々（令和5年4月3日撮影）

令和5年4月20日

関東地方整備局

# 1. 利根川上流9ダム等の現状

## (1) 利根川

### 1) 栗橋地点上流域平均降水量の状況（令和5年4月17日0時までの降水量）

《令和4年》

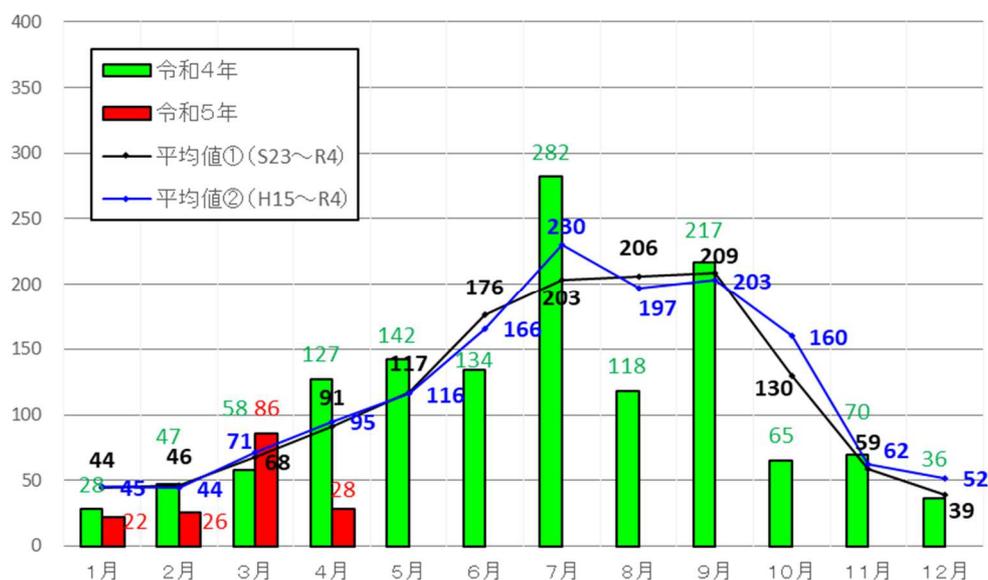
10月は65mm（平均値130mm）と平均値の5割の降水量でしたが、11月は70mm（平均値59mm）と平均値を上回り、12月は概ね平均値の降水量でした。

《令和5年》

1月は22mm（平均値44mm）、2月は26mm（平均値46mm）と平均値を下回る降水量でしたが、3月は86mm（平均値68mm）と平均値を上回る降水量でした。

4月の降水量は、17日0時までの累計で28mmとなっています。（4月の月間降水量の平均値は91mm）

（図－1、表－1参照）



図－1 利根川栗橋地点上流域平均降水量（令和5年4月17日0時まで）

表－1 利根川栗橋地点上流域平均降水量（令和5年4月17日0時まで）

単位 (mm)	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	摘要
平成24年	43	57	115	98	206	192	190	87	221	85	55	47	1,396	-
平成25年	43	38	20	134	46	168	152	153	244	224	24	48	1,294	-
平成26年	18	114	75	58	83	330	192	218	87	221	70	57	1,523	-
平成27年	57	36	63	86	45	221	248	207	300	29	127	33	1,452	-
平成28年	69	36	57	104	56	156	134	328	312	55	68	56	1,431	-
平成29年	61	37	56	73	95	97	240	274	113	368	18	22	1,454	-
平成30年	39	17	108	69	128	114	178	187	254	56	23	35	1,208	-
令和元年	26	17	75	96	108	248	249	195	95	489	56	36	1,690	-
令和2年	76	25	99	134	104	211	278	81	163	146	10	29	1,356	-
令和3年	34	45	102	78	95	181	256	271	151	77	59	70	1,419	-
令和4年	28	47	58	127	142	134	282	118	217	65	70	36	1,324	-
平均値① (S23~R4)	44	46	68	91	117	176	203	206	209	130	59	39	1,388	-
平均値② (H15~R4)	45	44	71	95	116	166	230	197	203	160	62	52	1,441	-
令和5年	22	26	86	28	0	0	0	0	0	0	0	0	162	-
平均値①に対する割合 (%)	50	57	126	31	0	0	0	0	0	0	0	0	12	-

注) 平均値①はデータが存在する期間（75ヶ年）を平均したもの

平均値②は降水量の変化傾向を確認するために直近20ヶ年を平均したもの

2) 藤原ダム地点及び尾瀬沼地点の雪の状況（令和4年～令和5年 冬期）

《積雪深・降雪量》

今冬は、積雪深・降雪量とも平均を下回りました。

藤原ダム地点の累加降雪量は平均値の約69%でした。藤原地点の気温は、月平均で平年に対して2月は+0.7℃、3月は+3.5℃と高温の状態が続いています。これにより、藤原ダム周辺の雪解けは平均と比べて約1ヶ月早い状況となりました。

(図-2～5参照)



図-2 藤原ダム位置

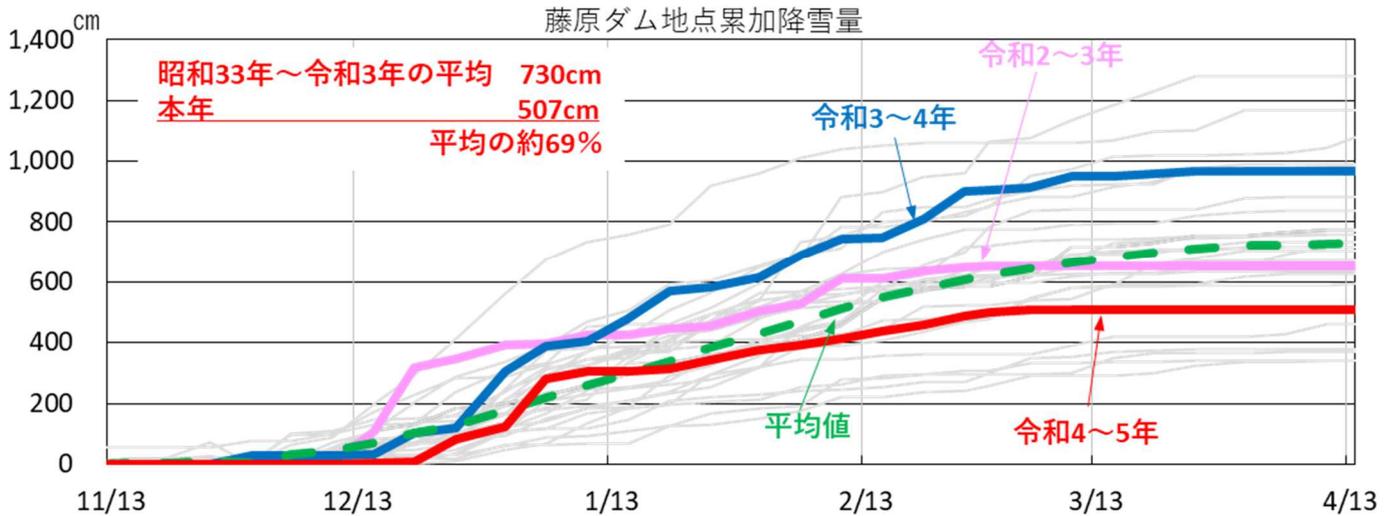


図-3 藤原ダム地点の累加降雪量

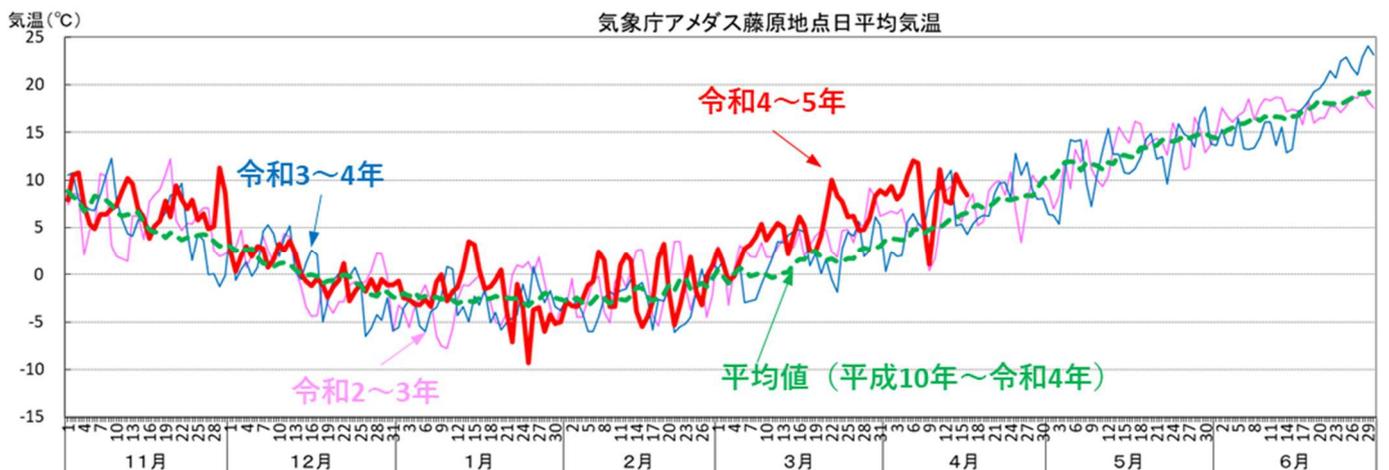


図-4 藤原地点日平均気温

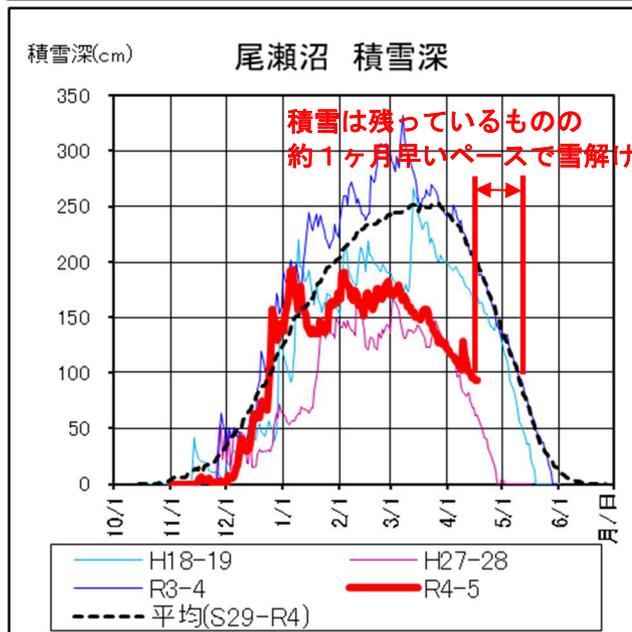
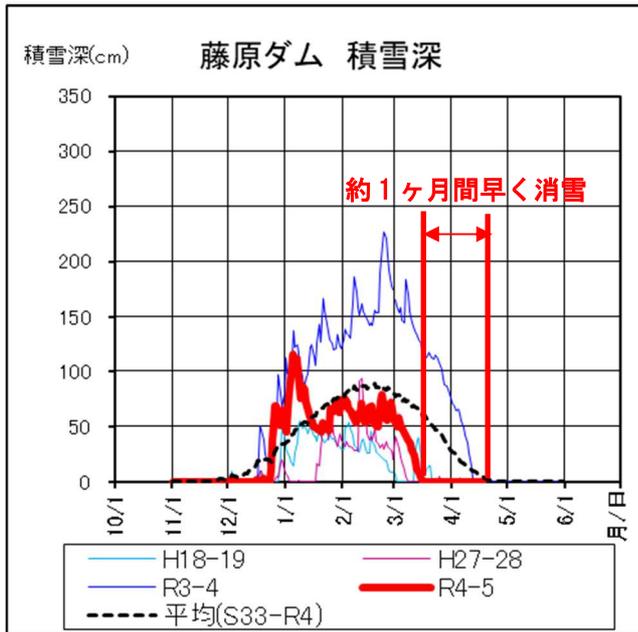
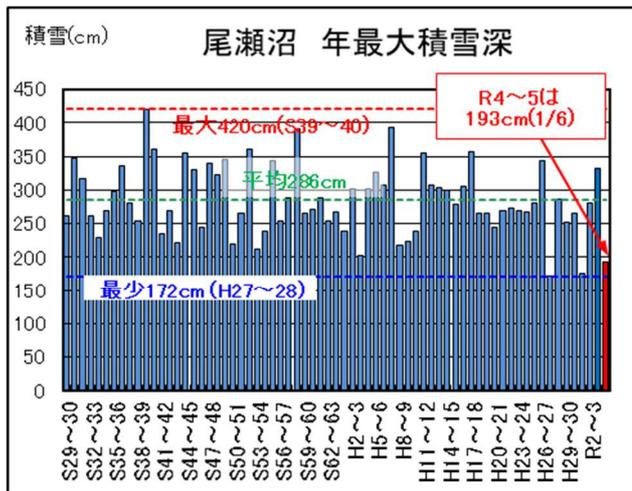
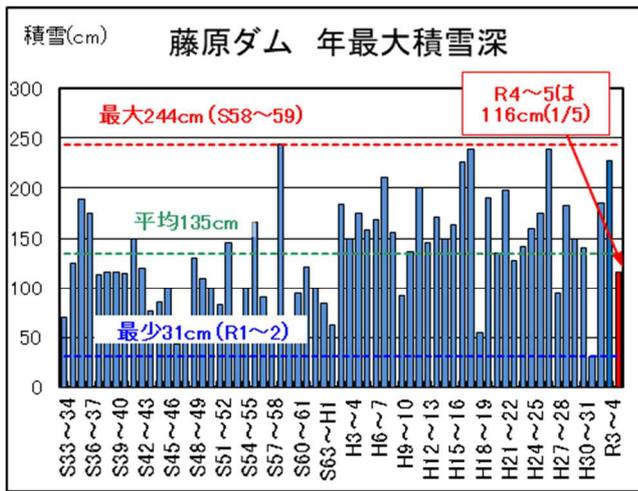


図-5 藤原ダム地点及び尾瀬沼地点の積雪深図

(令和5年4月17日9時現在)

※過去及び平均のデータは半旬末の値

### 3) 現在の観測所別積雪深状況

奥利根流域における4月17日9時現在、積雪観測所の積雪深は、平均値と比べて小さい状況です。

(図-6、図-7 参照)

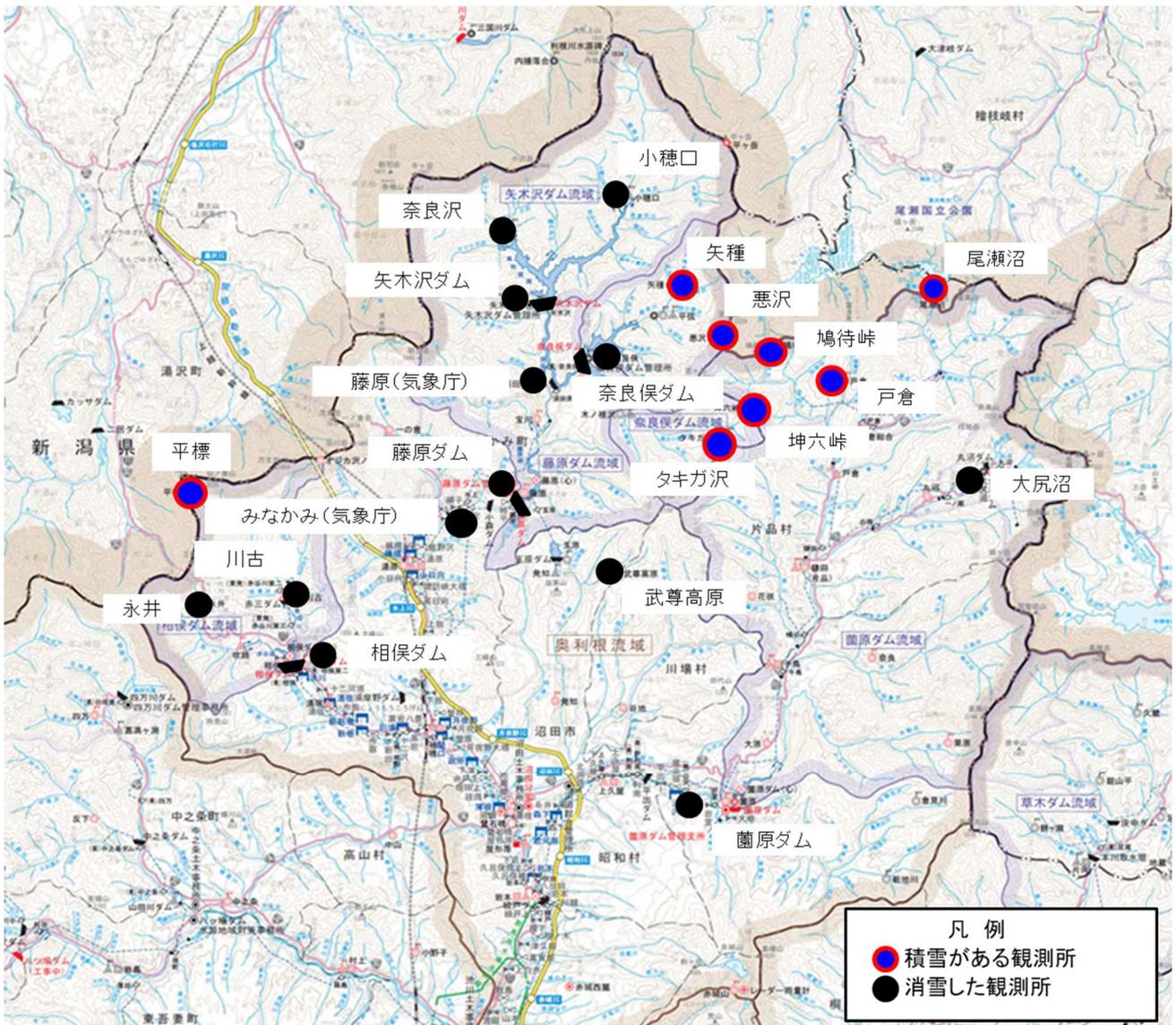


図-6 積雪観測所位置図

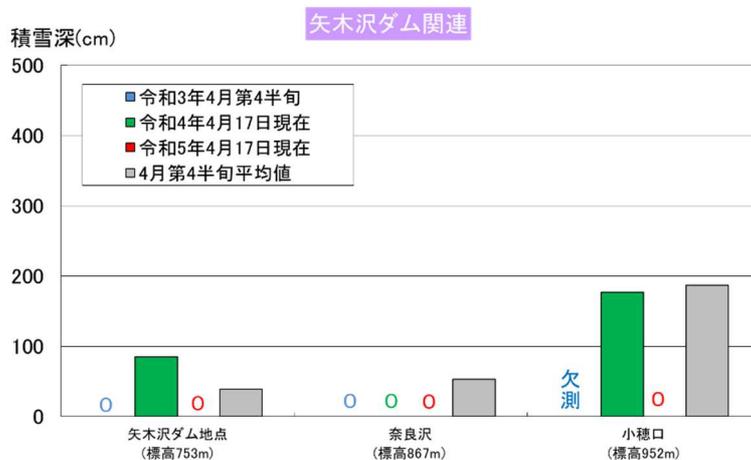
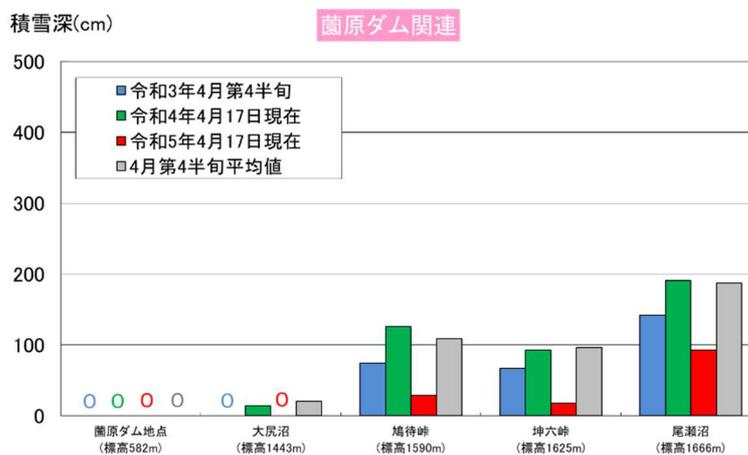
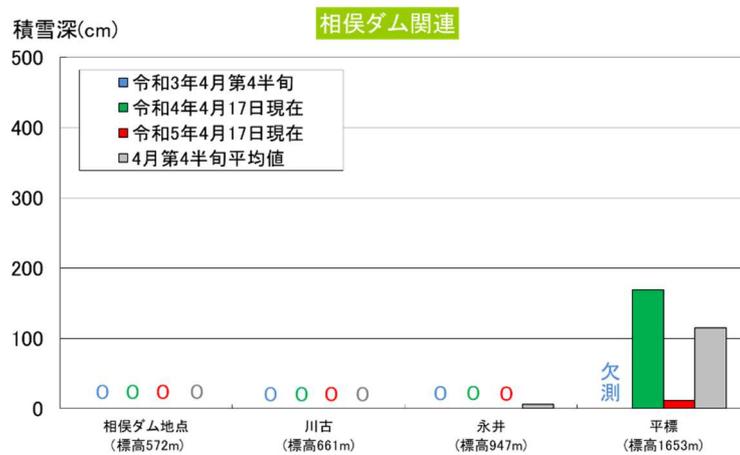
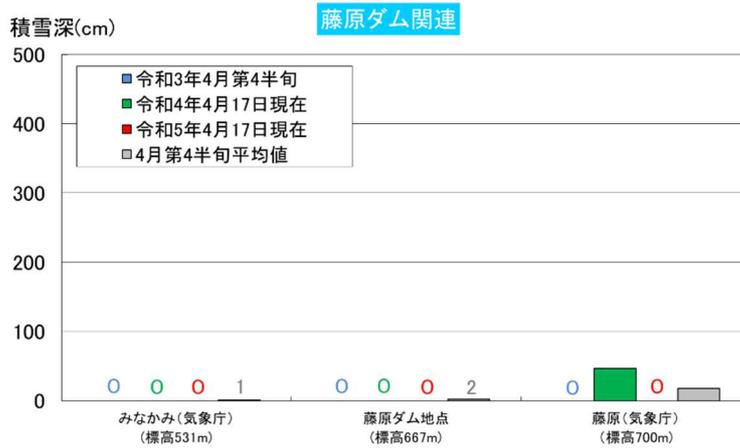
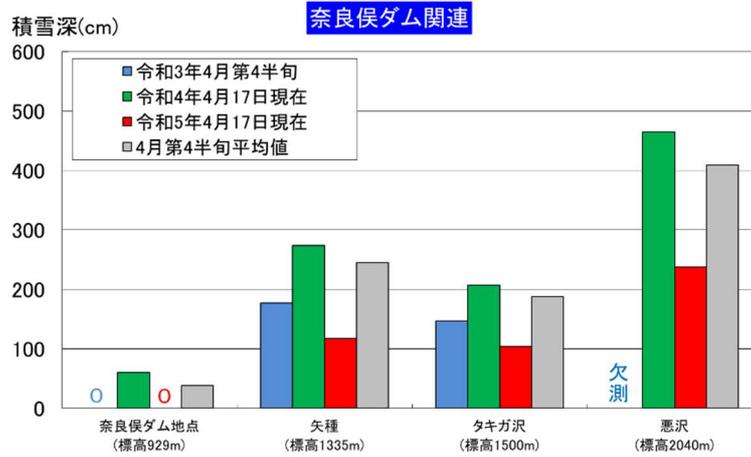


図-7 各観測所の積雪深状況 (1) (令和5年4月17日9時現在)



図一 7 各観測所の積雪深状況 (2) (令和5年4月17日9時現在)

●昨年の同時期と現在を比較すると、雪解けが早いことが確認できます。



令和4年4月5日撮影

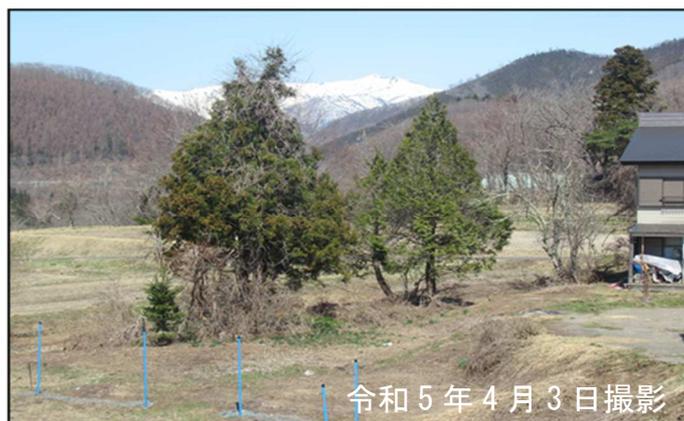


令和5年4月6日撮影

藤原ダム周辺 みなかみ町藤原付近（宝台樹スキー場）より朝日岳方面を望む



令和4年4月5日撮影



令和5年4月3日撮影

藤原ダム周辺 みなかみ町藤原 大芦付近より巻機山方面を望む

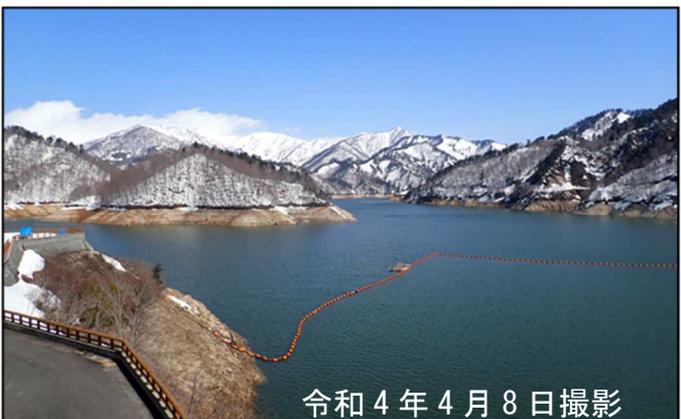


令和4年4月8日撮影



令和5年4月6日撮影

奈良俣ダム



令和4年4月8日撮影



令和5年4月6日撮影

矢木沢ダム  
積雪の状況写真

4) 利根川上流9ダムの貯水状況等（令和5年4月17日0時現在）

《令和4年》

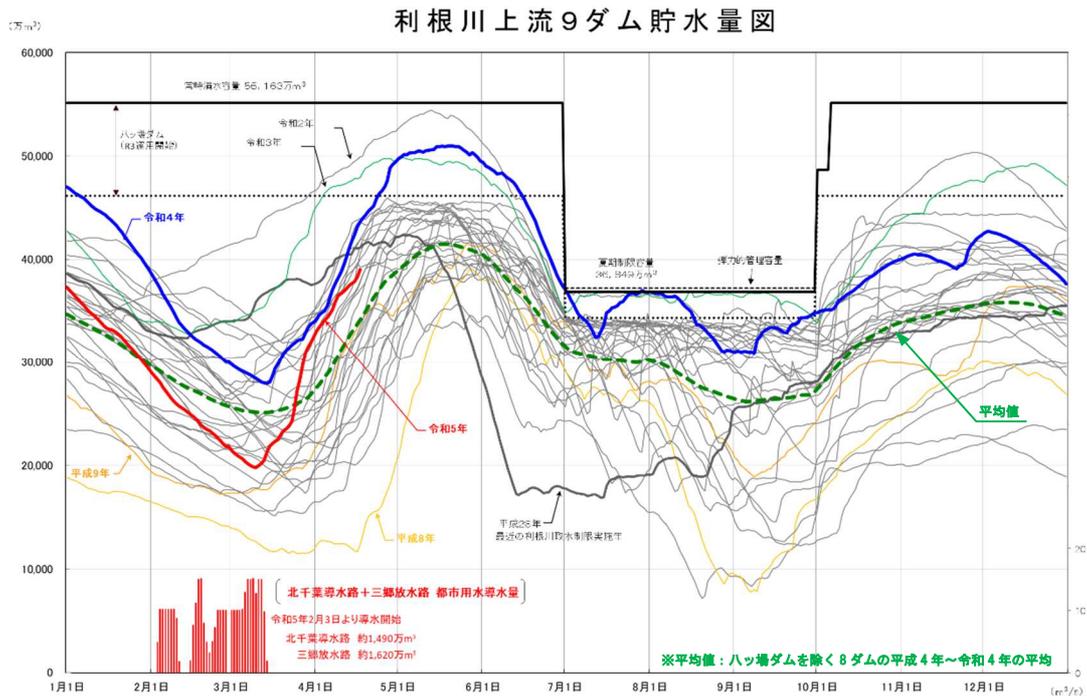
夏期（7月から9月）は、8月が少雨だったものの、令和元年度にハッ場ダムが完成し、ダム群の合計貯水容量が増加したこともあって、貯水量は平均値を上回る状況で推移しました。

12月の初旬からは、河川の流量減少に伴い都市用水を主とした用水確保のための補給が必要となり、貯水量は減少に転じました。

《令和5年》

昨年末からの補給状態が続き、貯水量は1月末に平均値を下回り、平成9年冬期に利根川で取水制限が実施された際の貯水量に迫るまで減少しましたが、北千葉導水路等の運用、雪解けによる河川の流量及びダムへの流入量の増加により、現在は増加途上にあります。4月17日0時の貯水量は3億9,008万m<sup>3</sup>、貯水率71%（平均値に対して114%）となっています。

（図－8、表－2参照）



図－8 利根川上流9ダム貯水容量図（令和5年4月17日0時現在）

表－2 利根川上流9ダム貯水量（令和5年4月17日0時現在）

ダム名	有効容量 (万m <sup>3</sup> )	貯水量 (万m <sup>3</sup> )	貯水率 (%)	前日補給量 (万m <sup>3</sup> /日)
矢木沢ダム	11,550	9,288	80%	-314
奈良俣ダム	8,500	6,995	82%	-126
藤原ダム	3,101	2,248	72%	71
相俣ダム	2,000	271	14%	1
菌原ダム	1,322	1,153	87%	-109
ハッ場ダム	9,000	6,610	73%	-133
下久保ダム	12,000	7,813	65%	7
草木ダム	5,050	3,825	76%	-50
渡良瀬貯水池	2,640	805	30%	-38
9ダム合計	55,163	39,008	71%	-691
8ダム合計の平均値 (平成4年～令和4年)		34,121	(平均値に対する割合114%)	

※有効容量は、常時満水容量

※貯水率は、常時満水容量に対する貯水量の割合

※前日補給量とは、前日の貯水量と本日の貯水量の差。(値が負の場合は、放流量より流入量が多く、ダムに水を貯留している状況です。値が正の場合は、流入量より放流量が多く、ダムに貯留した水を流している状況です。)

5) 北千葉導水路、三郷放水路の運用状況

江戸川における都市用水を確保するために、北千葉導水路、三郷放水路の運用を2月3日から開始しました。上流域での雪解けが始まり江戸川の流量も増加したため、3月14日で運用を停止しました。

下流施設では、流況の急激な低減、降雨・雪解けによる流況回復状況等を常時監視しながら、必要なタイミングで必要な量を導水する無駄の無い、きめ細やかな運用を実施しています。

令和5年の合計導水量は4月17日0時までで、約3,110万 $m^3$  (35日間)となっています。

(図-8参照)

(2) 鬼怒川

1) 佐貫地点上流域平均降水量の状況 (令和5年4月17日0時までの降水量)

《令和4年》

10月は77mm (平均値156mm)、11月は62mm (平均値82mm) と平均値を下回る降水量で、12月は48mm (平均値48mm) で平均値と同量の降水量でした。

《令和5年》

1月は30mm (平均値は51mm)、2月は26mm (平均値は52mm)、3月は63mm (平均値74mm) と平均値を下回る降水量となりました。

4月の降水量は17日0時までの累加で24mmとなっています。(4月の月間降水量の平均値は103mm)

(図-9、表-3参照)

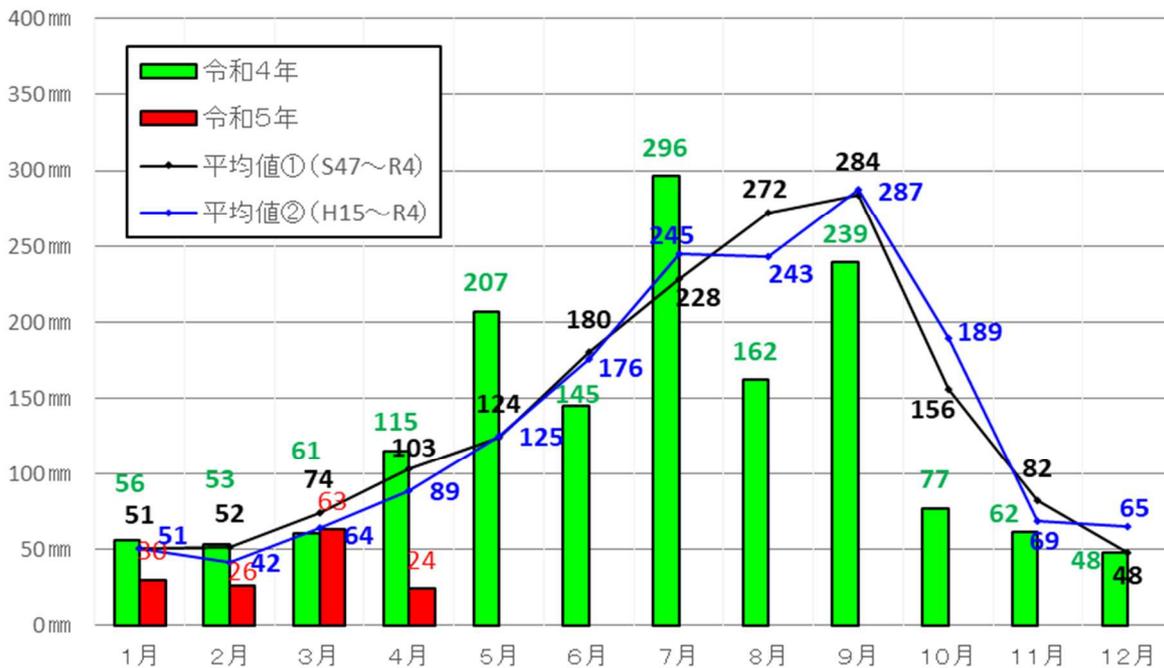


図-9 鬼怒川佐貫地点上流域平均降水量 (令和5年4月17日0時まで)

単位(mm)	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	摘要
平成24年	40	47	101	111	314	276	227	109	354	113	71	75	1,838	
平成25年	45	35	14	147	46	171	177	172	411	301	29	66	1,614	
平成26年	13	121	94	77	100	437	223	355	109	271	72	85	1,957	
平成27年	55	67	82	68	61	204	276	201	624	28	112	47	1,825	
平成28年	66	35	31	109	63	138	94	401	306	49	53	47	1,392	
平成29年	91	45	38	74	93	95	242	337	200	392	18	62	1,687	
平成30年	73	19	174	74	132	94	240	330	328	107	31	51	1,653	
令和元年	23	12	71	71	149	245	251	266	132	590	64	25	1,899	
令和2年	106	19	78	172	108	135	231	102	369	120	12	44	1,496	
令和3年	34	56	125	101	99	186	255	364	169	91	111	116	1,707	—
令和4年	56	53	61	115	207	145	296	162	239	77	62	48	1,521	
平均値① (S47~R4)	51	52	74	103	124	180	228	272	284	156	82	48	1,654	
平均値② (H15~R4)	51	42	64	89	125	176	245	243	287	189	69	65	1,645	—
令和5年	30	26	63	24	0	0	0	0	0	0	0	0	143	—
平均値①に対する割合(%)	59	50	85	23	0	0	0	0	0	0	0	0	9	—

表-3 鬼怒川佐貫地点上流域平均降水量[mm] (令和5年4月17日0時まで)

注) 平均値①はデータが存在する期間(51ヶ年)を平均したもの

平均値②は降水量の変化傾向を確認するために直近20ヶ年を平均したもの

## 2) 鬼怒川上流4ダムの貯水状況等 (令和5年4月17日0時現在)

### 《令和4年》

夏期(7月から9月)は8月が少雨だったものの、貯水量は平均値を上回る状態で推移しました。10月以降は、川治・五十里・川俣ダムの貯水池内に堆積した土砂の掘削工事のために、貯留を制限する運用を行っていましたが、工事の進捗に合わせて貯留を再開しました。

### 《令和5年》

3月上旬からは雪解けによりダムへの流入量が増加し、4月14日0時には4ダム合計の貯水量が今期最大の2億3,924万 $m^3$ 、貯水率約95%となり、ほぼ満水となりました。

鬼怒川では、4月中旬から農業用水の取水が急増し、これに対応する補給を行っているため、4月17日0時の貯水量は2億3,653万 $m^3$ 、貯水率93%(平均値に対して104%)となっています。

(図-10、表-4 参照)

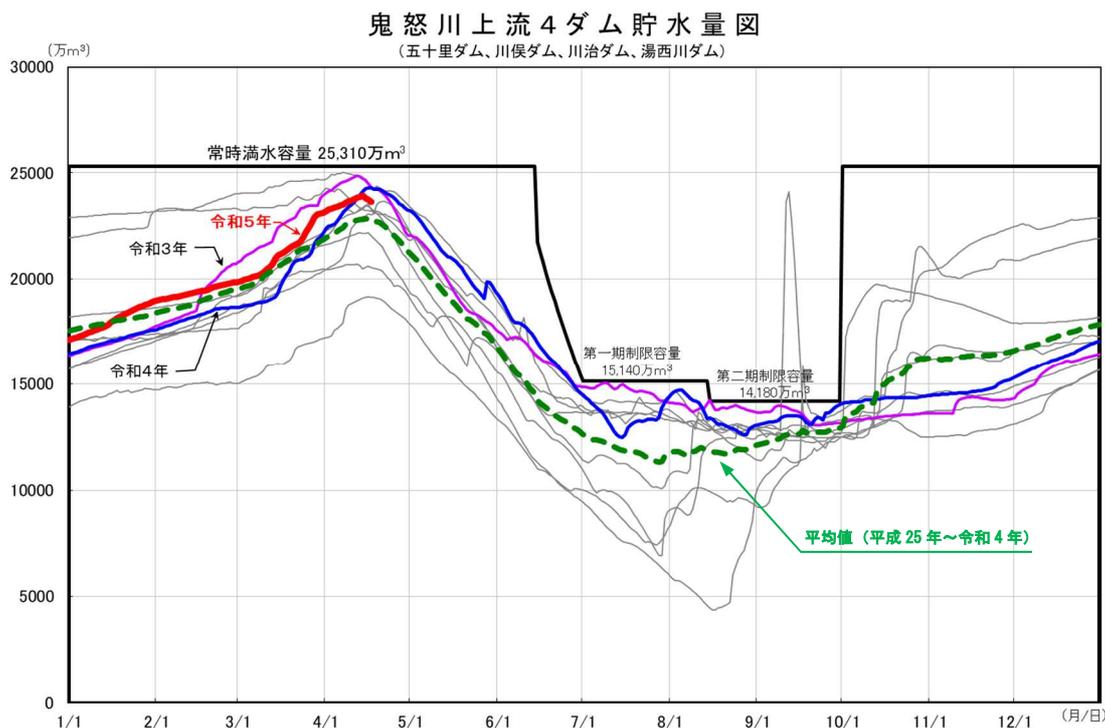


図-10 鬼怒川上流4ダム貯水容量図 (令和5年4月17日0時現在)

ダム名	有効容量 (万m <sup>3</sup> )	貯水量 (万m <sup>3</sup> )	貯水率 (%)	前日補給量 (万m <sup>3</sup> /日)
五十里ダム	3,200	2,747	86%	55
川俣ダム	7,310	7,108	97%	45
川治ダム	7,600	7,316	96%	-7
湯西川ダム	7,200	6,482	90%	-15
4ダム合計	25,310	23,653	93%	78
4ダム合計の平均値 (平成25年～令和4年)		22,755	(平均値に対する割合104%)	

表-4 鬼怒川上流4ダム貯水量(令和5年4月17日0時現在)

※有効容量は、常時満水容量

※貯水率は、常時満水容量に対する貯水量の割合

※前日補給量とは、前日の貯水量と本日の貯水量の差。(値が負の場合は、放流量より流入量が多く、ダムに水を貯留している状況です。値が正の場合は、流入量より放流量が多く、ダムに貯留した水を流している状況です。)

(3) 荒川水系

1) 秋ヶ瀬地点上流域平均降水量の状況（令和5年4月17日0時までの降水量）

《令和4年》

10月は109mm（平均値159mm）と平均値の7割程度の降水量で、11月はおおむね平均値、12月は25mm（平均値32mm）と平均値の8割程度の降水量でした。

《令和5年》

1月は6mm（平均値35mm）、2月は25mm（平均値40mm）で平均値を下回っており、3月は86mm（平均値71mm）と平均値を上回りました。

4月の降水量は、17日0時までの累加で24mmとなっています。（4月の月間降水量の平均値は96mm）

（図-11、表-5参照）

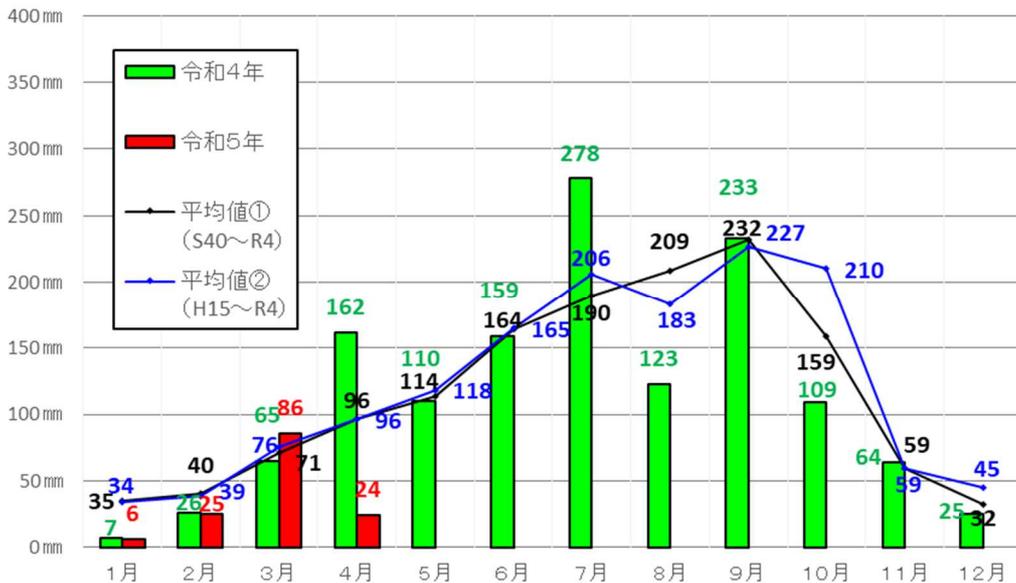


図-11 荒川秋ヶ瀬地点上流域平均降水量（令和5年4月17日0時まで）

表-5 荒川秋ヶ瀬地点上流域平均降水量（令和5年4月17日0時まで）

単位 (mm)	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	摘要
平成24年	36	54	93	86	257	217	102	65	245	93	54	33	1,335	
平成25年	35	18	37	152	36	172	94	77	238	327	17	46	1,249	
平成26年	8	179	51	51	73	512	125	182	125	286	62	28	1,682	
平成27年	41	23	48	84	47	192	281	213	322	26	119	28	1,424	
平成28年	75	53	74	72	44	119	90	462	247	31	87	60	1,414	
平成29年	24	10	73	67	67	70	218	263	138	488	13	7	1,438	
平成30年	27	17	160	53	124	118	200	184	340	44	21	24	1,312	
令和元年	10	24	97	58	91	239	225	137	166	725	80	29	1,881	
令和2年	95	11	105	186	103	221	304	56	261	209	5	3	1,559	
令和3年	36	43	110	60	102	140	288	209	144	117	51	66	1,366	
令和4年	7	26	65	162	110	159	278	123	233	109	64	25	1,361	
平均値① (S40~R4)	35	40	71	96	114	164	190	209	232	159	59	32	1,401	-
平均値② (H15~R4)	34	39	76	96	118	165	206	183	227	210	59	45	1,458	-
令和5年	6	25	86	24	0	0	0	0	0	0	0	0	141	-
平均値①に対する割合 (%)	17	63	121	25	0	0	0	0	0	0	0	0	10	-

注) 平均値①はデータが存在する期間（58ヶ年）を平均したもの  
平均値②は降水量の変化傾向を確認するために直近20ヶ年を平均したもの

2) 荒川4ダムの貯水状況等（令和5年4月17日0時現在）

《令和4年》

夏期（7月から9月）は8月が少雨だったものの、貯水量は平均値を上回る状況で推移しました。10月以降は、二瀬ダムでは貯水池内に堆積した土砂の掘削工事のために、貯留を制限する運用を行っていました。まとまった降雨が無かったこともあり、ダム群合計貯水量は平均値を下回ったまま推移しました。

《令和5年》

令和5年に入ってから貯水量は、平均値を下回ったままの状態であり4月17日0時の貯水量は8,794万 $m^3$ 、貯水率61%（平均値に対して90%）となっています。

（図-12、表-6参照）

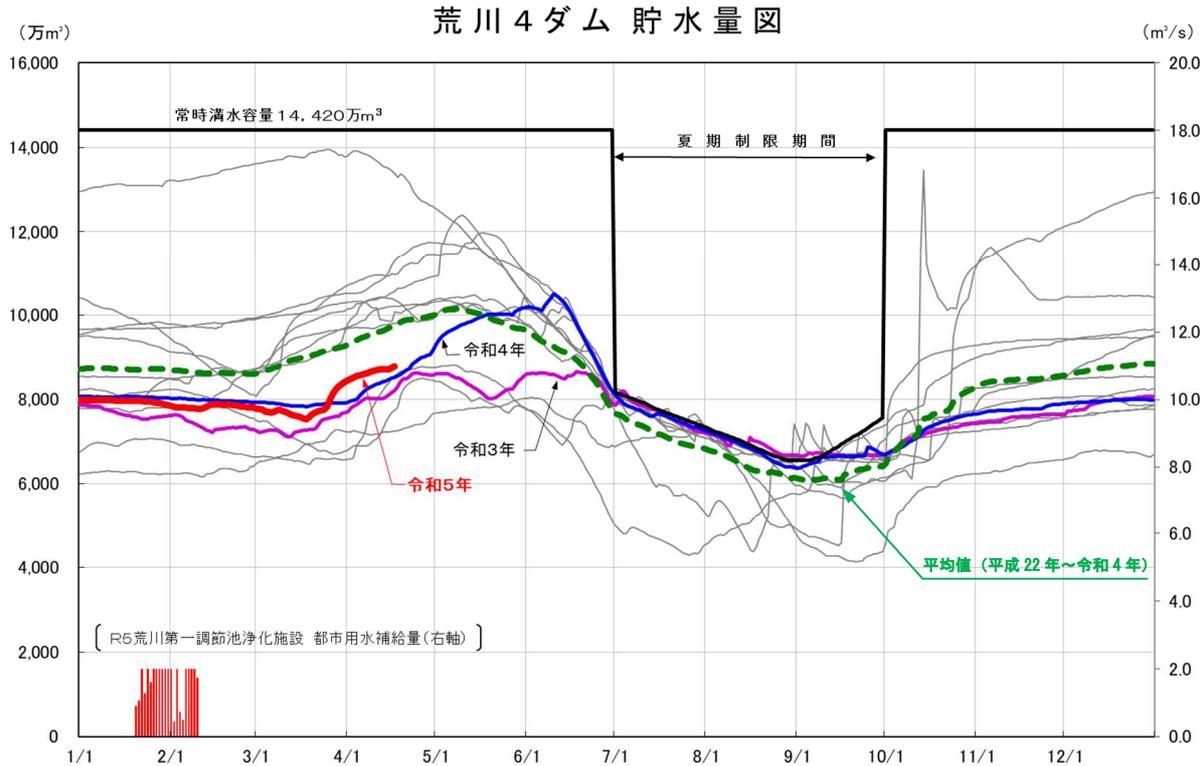


図-12 荒川4ダム貯水量図（令和5年4月17日0時現在）

ダム名	有効容量 (万 $m^3$ )	貯水量 (万 $m^3$ )	貯水率 (%)	前日補給量 (万 $m^3$ /日)
二瀬ダム	2,000	940	47%	-35
滝沢ダム	5,800	3,206	55%	-4
浦山ダム	5,600	3,628	65%	0
荒川貯水池	1,020	1,020	100%	0
4ダム合計	14,420	8,794	61%	-39
4ダム合計の平均値 (平成22年~令和4年)		9,769	(平均値に対する割合90%)	

表-6 荒川4ダム貯水量（令和5年4月17日0時現在）

※有効容量は、常時満水容量

※貯水率は、常時満水容量に対する貯水量の割合

※前日補給量とは、前日の貯水量と本日の貯水量の差（値が負の場合は、放流量より流入量が多く、ダムに水を貯留している状況です。値が正の場合は、流入量より放流量が多く、ダムに貯留した水を流している状況です。）

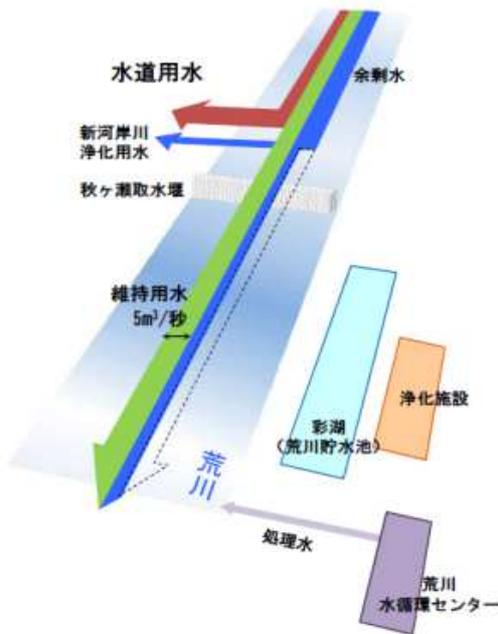
### 3) 荒川第一調節池浄化施設の運用状況

令和5年1月20日から2月10日までに約314万 $m^3$  (22日間) の補給を行っています。

(図-12 参照)

#### 荒川本川流量で水道用水が取水できるとき

- 堰上流で必要な水量を取水します。
- 余剰水は堰下流へ放流するとともに、新河岸川への浄化用水として利用します。
- 彩湖の貯水量が少ない場合には彩湖に取水することもあります。



#### 荒川本川流量で水が足りないとき

- 水道用水を確保するため、
- 彩湖(荒川貯水池)から堰の上流に補給します。
  - 下水処理水を浄化施設に導水して浄化し、堰の下流に放流します。これにより、秋ヶ瀬取水堰は下流への放流量を減らすことが可能となり、結果として堰上流で水道用水の取水が可能となります。

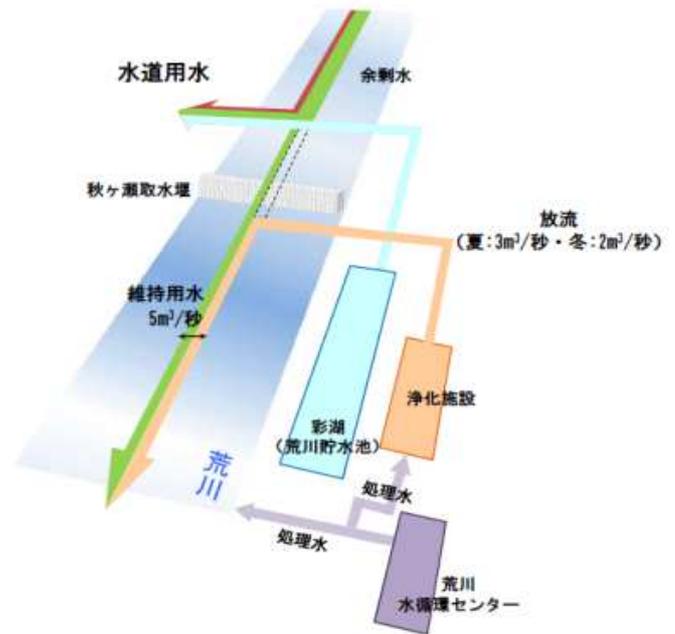


図-13 荒川貯水池及び浄化施設による利水補給

(4) 多摩川水系

1) 小河内ダム地点上流域平均降水量の状況 (令和5年4月17日7時までの降水量)

令和5年の小河内ダム地点上流域における降水量は、1月は6mm(平均値44mm)、2月は27mm(平均値55mm)で平均値以下の降水量となり、3月は115mm(平均値91mm)で平均値以上となっています。4月の降水量は、17日0時までの累加で32mm(4月の月間降水量の平均値は110mm)となっています。

(図-14 参照)

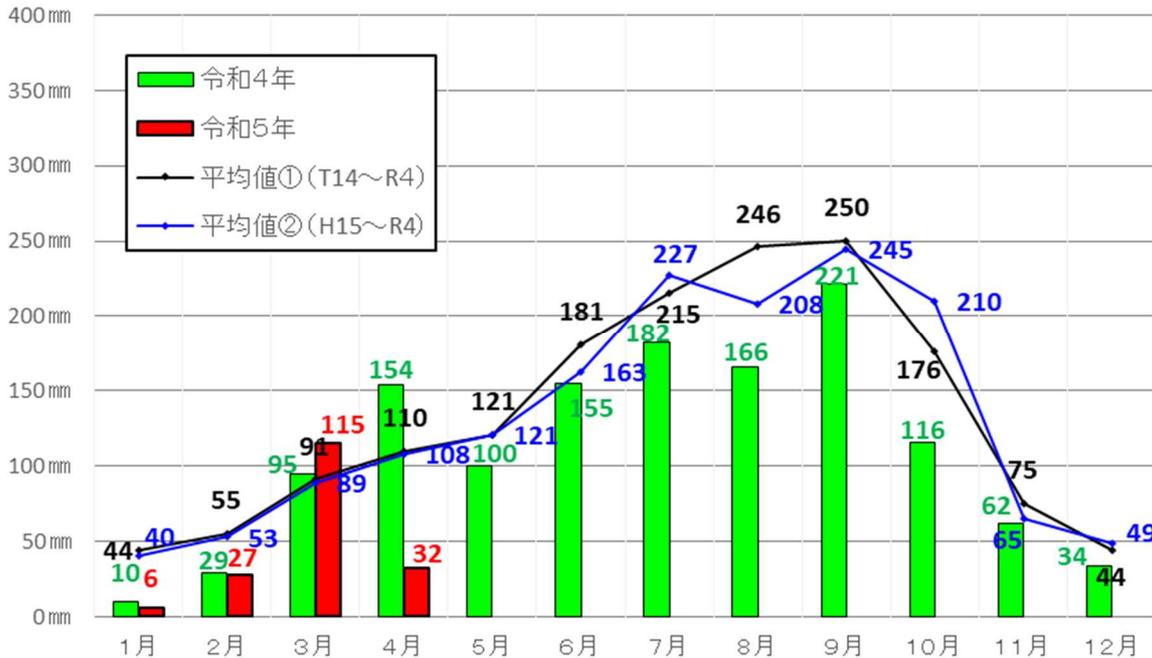


図-14 多摩川小河内ダム地点上流域平均降水量 (令和5年4月17日0時までの降水量)

2) 小河内ダムの貯水状況

令和5年4月17日7時現在の貯水量は、1億4,587万 $m^3$ となっています。(図-15 参照)

小河内ダム貯水量図

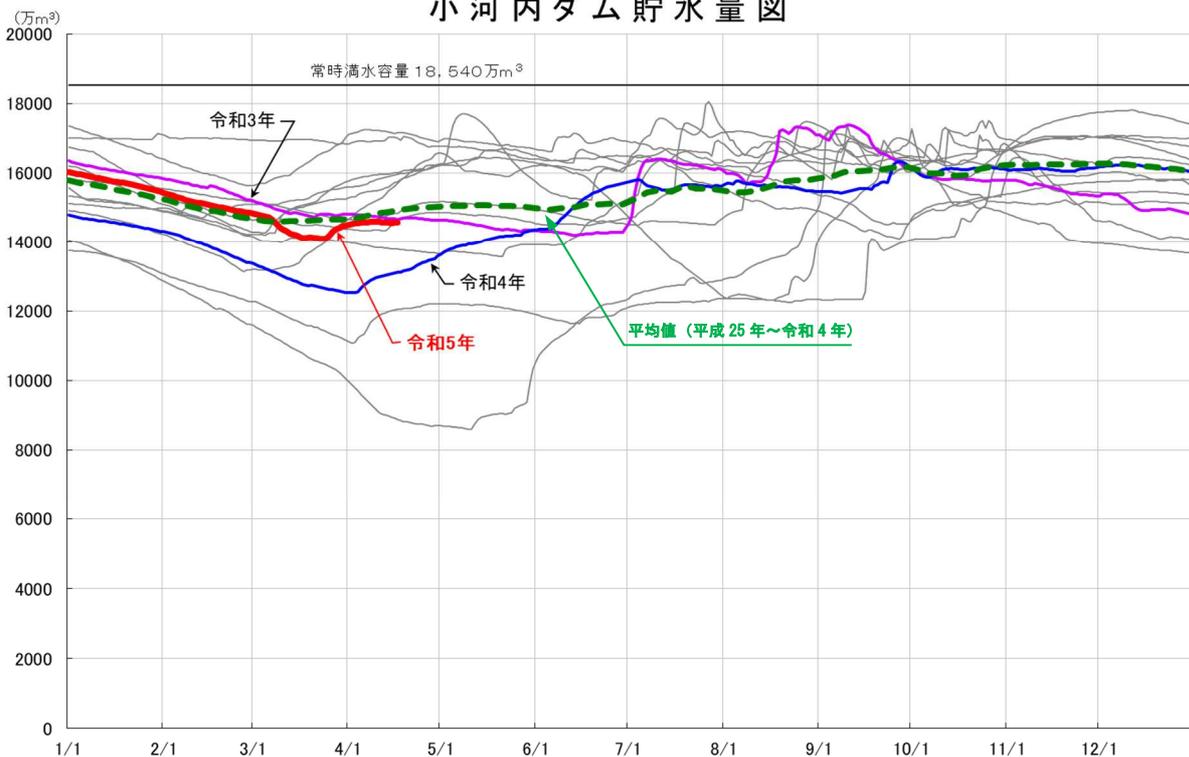


図-15 多摩川小河内ダム貯水容量図 (令和5年4月17日7時現在)

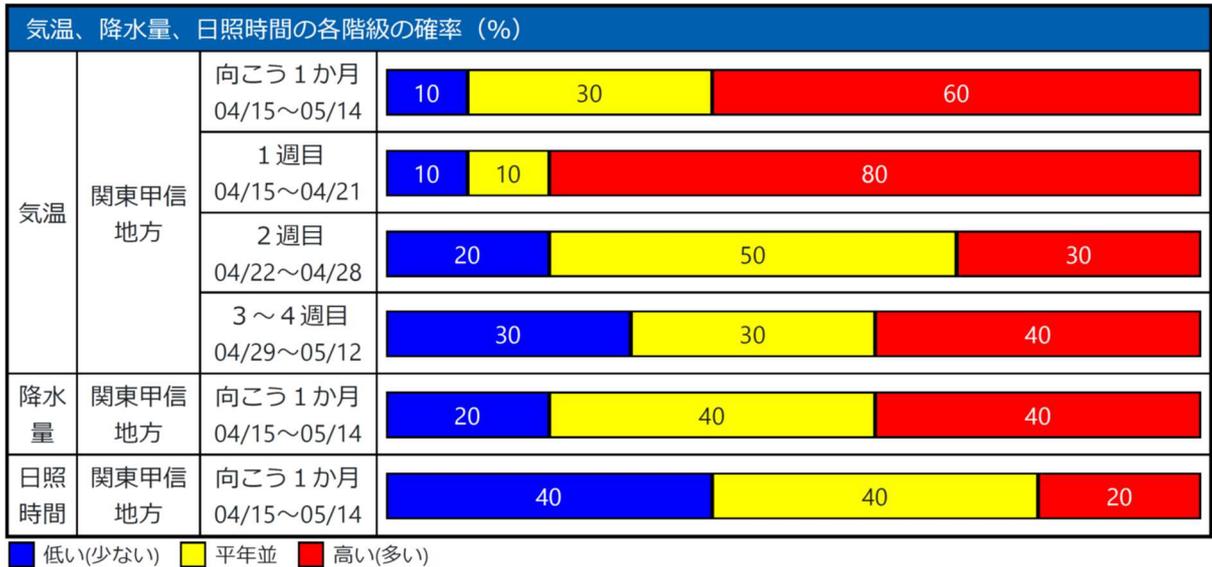
## 2. 今後の見通し

### (1) 気象予報

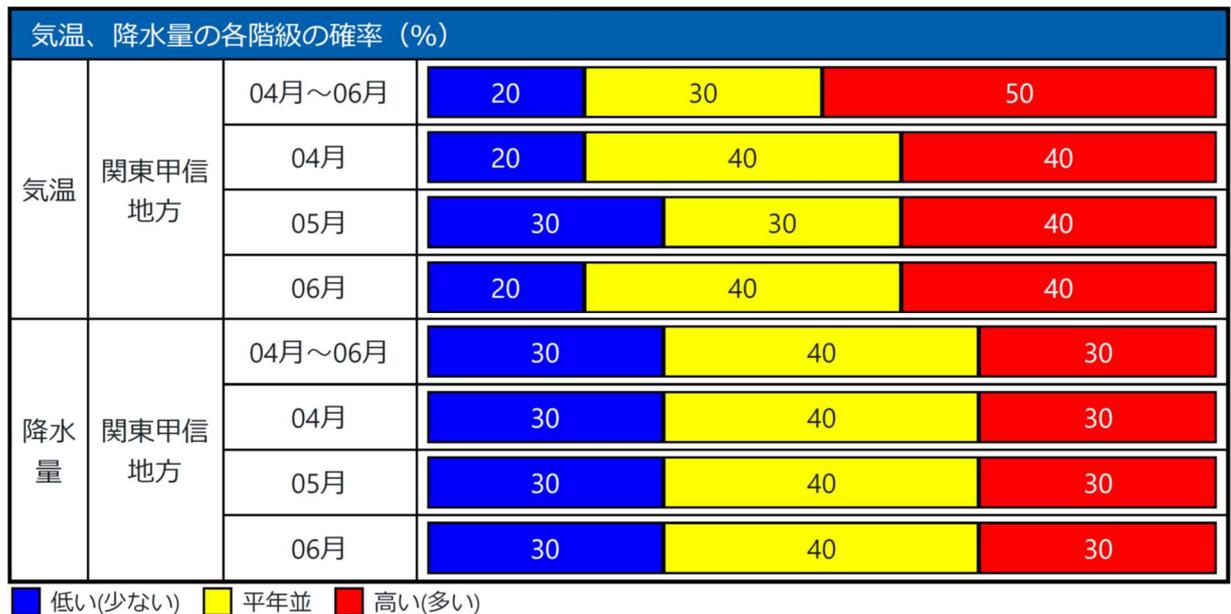
令和5年4月13日気象庁発表の関東甲信地方の1か月予報(令和5年4月15日から令和5年5月14日までの天候見通し)によると、向こう1か月の気温は「高い」の確率が60%、降水量は「多い」と「平年並」の確率が40%となっています。

また、令和5年3月20日気象庁発表の3か月予報(令和5年4月から令和5年6月までの天候見通し)によると、向こう3か月の気温は「高い」の確率が50%、降水量は「平年並」の確率が40%となっています。

#### 1か月予報(令和5年4月13日発表)



#### 3か月予報(令和5年3月20日発表)



# 首都圏の主要な河川と水資源開発施設

